

しっぽのない犬

しっぽのない犬



絵・文章：@me

「しっぽのない犬」

あるところに、しっぽのない犬がいました。

しっぽのない犬は、歩くときにバランスが上手く取れないので、いつもフラフラ歩いていました。

そして、しっぽがないので、うれしいときも、悲しいときも、怒っている時も、楽しい時も、しっぽを振ることが出来ませんでした。だから、しっぽのない犬は、いつも周りの犬や子供たちにいじめられていました。

しっぽのない犬は思いました。

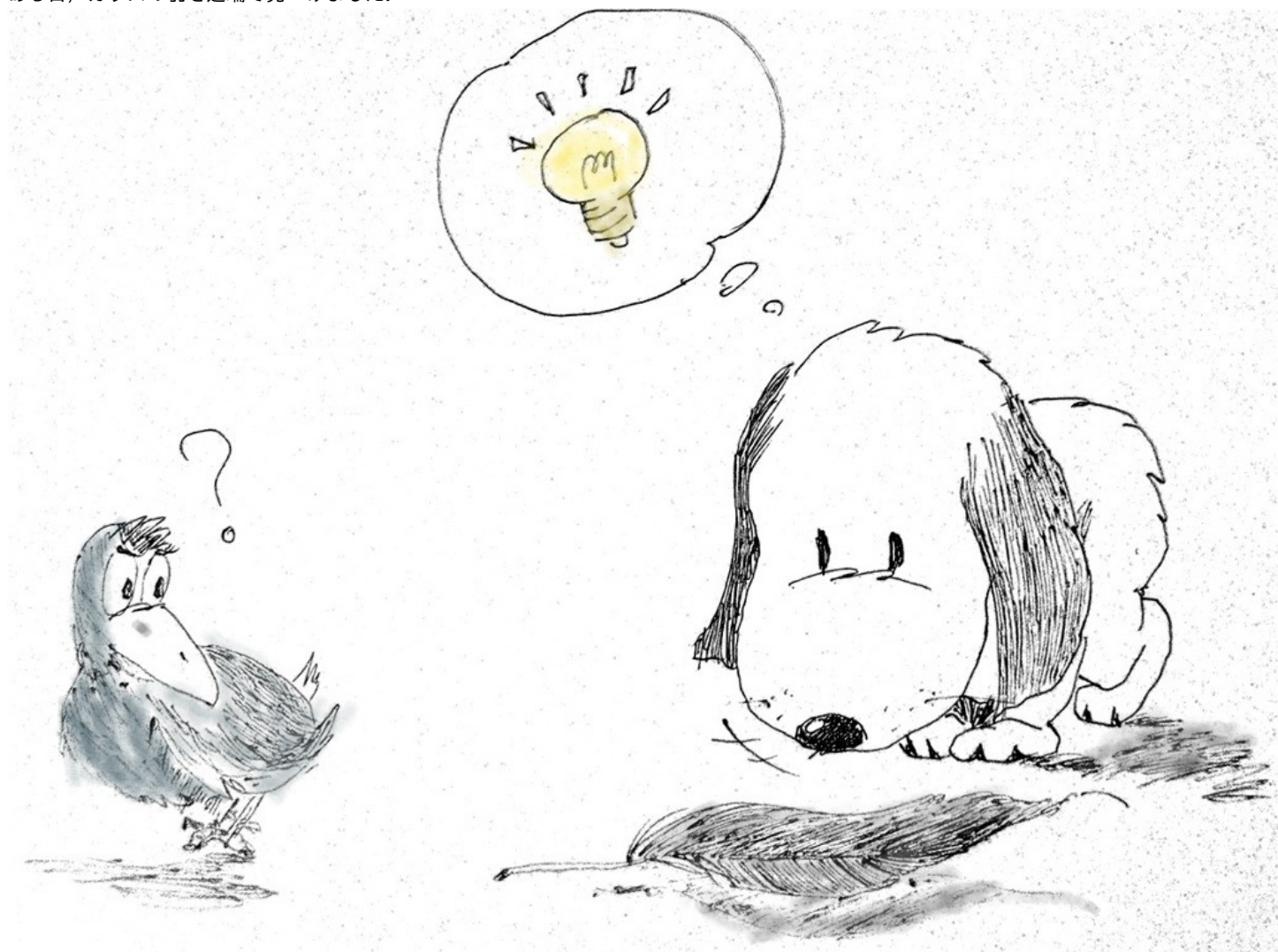
「どうしてぼくにはしっぽがないんだろう？」

しっぽがあったら、みんなと同じようにうれしいときも、悲しいときも、怒っている時も、楽しい時も、しっぽを振ることができるのに。そうすれば、みんなにいじめられなくなるのかな？」

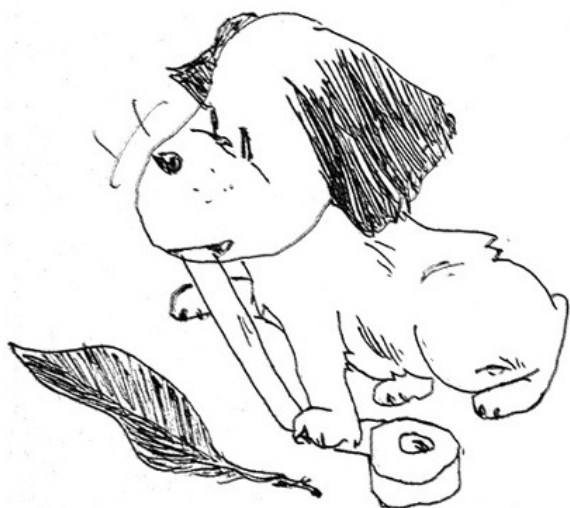
しっぽのない犬は、しっぽが欲しくてたまりませんでした。



ある日、カラスの羽を道端で見つけました。



しっぽのない犬は、カラスの羽を自分のおしりにくっつけました。
「よーし、これでぼくにもしっぽができたぞ！」





しっぽのない犬は、うれしくて公園に遊びに行きました。



ところが、他の犬や子供達からまたいじめられました。

「変な犬！ カラスの羽をおしりにくっつけているぞ〜！」

カラスの羽は、他の犬に取られてしまいました。子供たちは石を投げつけてきました。

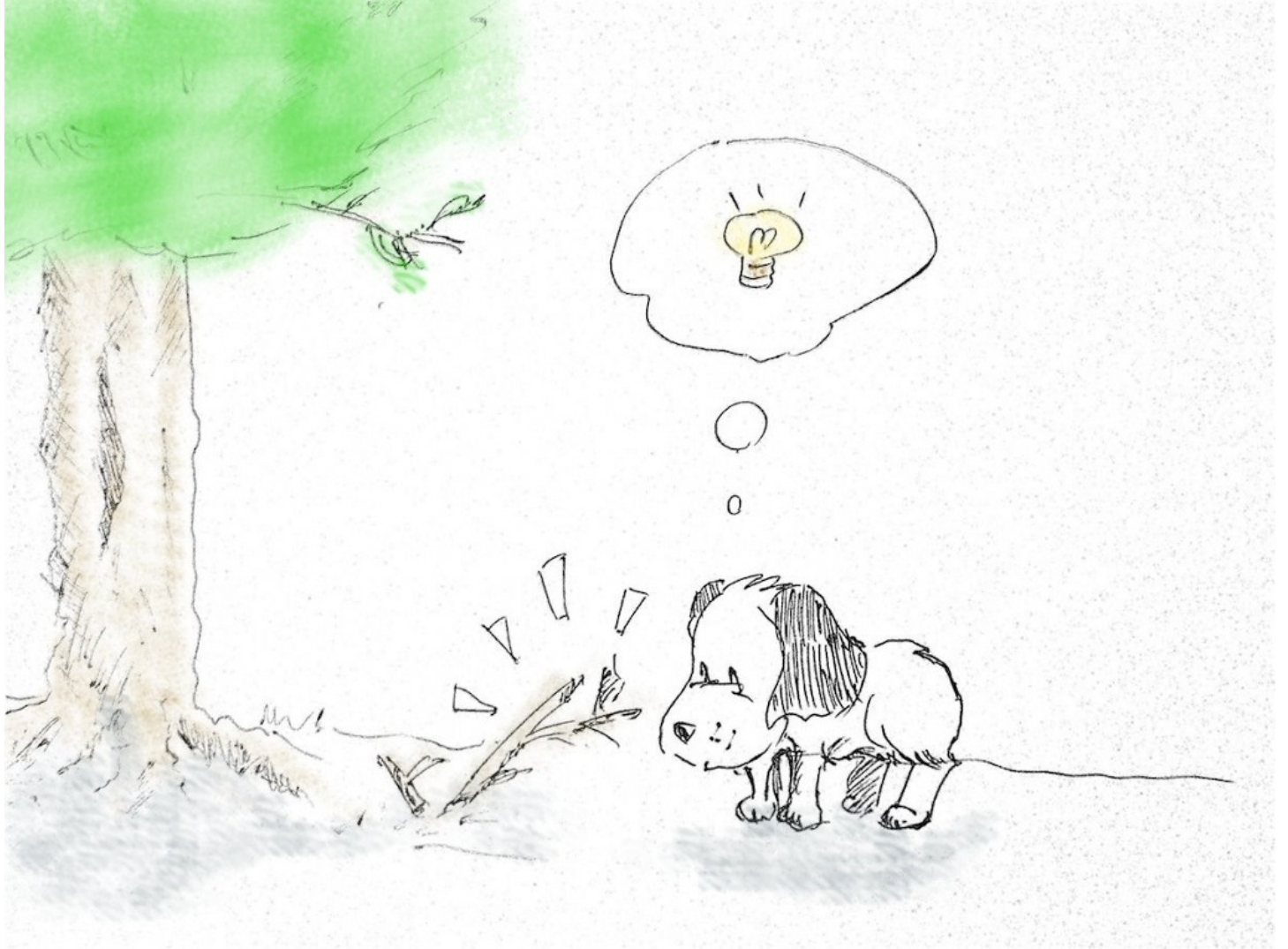


しっぽのない犬は、またしっぽがなくなってしまいました。
「どうして、カラスの羽は、しっぽにならないんだろう……」
しっぽのない犬は、元気がなくなりました。



丈夫な小枝

ある日、丈夫な小枝を拾いました。



しっぽのない犬は、丈夫な小枝をおしりにくっつけました。
「よーし、これでしっぽは丈夫になったぞ！」





しっぽのない犬は、うれしくて散歩に行きました。



ところが、他の犬や子供達からまたいじめられました。

「変な犬！ 汚い小枝をおしりにくっつけているぞ〜！」

丈夫なはずの小枝は、他の犬に取られてしまいました。子供たちはゴミを投げつけてきました。

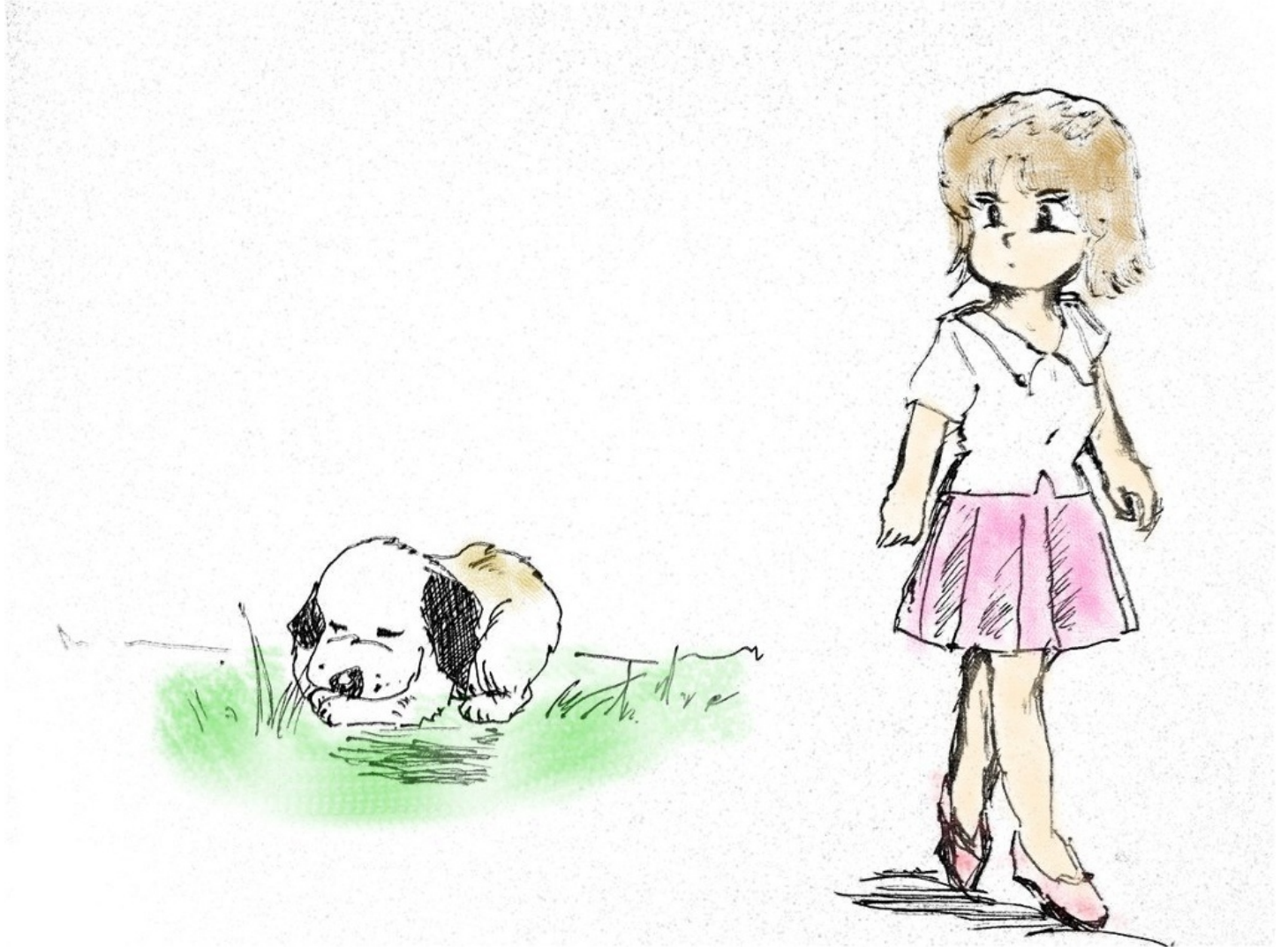


しっぽのない犬は、またしっぽがなくなってしまいました。
「どうして、丈夫な小枝は、しっぽにならないんだろう……」
しっぽのない犬は、また元気がなくなりました。



小さな女の子

ある日、小さな女の子に出会いました。



しっぽのない犬は女の子に頼みました。

「お願いします。ぼくにしっぽをつけて下さい。」

女の子は、しっぽのない犬をみて、とても可愛いと思いました。

「どうして、アナタにはしっぽがないの？」

しっぽのない犬は、女の子の言葉がわかりませんでした。女の子は、しっぽのない犬の言葉がわかりませんでした。

「カラスの羽をくっつけてもしっぽにならなかった。丈夫な小枝をくっつけてもしっぽにならなかった。だからぼくに立派なしっぽをつけて下さい。」

しっぽのない犬は、目に涙を浮かべて女の子に頼みました。



女の子は、目に涙を浮かべているのを見ながら、抱きしめました。

「大丈夫。私がそばに居てあげるからね。」

女の子は優しく身体を撫でてあげました。

しっぽのない犬は、生まれて初めてやさしく抱きしめられました。なんだかわからないけど、いつまでも腕の中で抱かれていたいと思いました。

女の子がしっぽのない犬の頭を優しく撫でてしていると、耳がパタパタと動き始めました。

「可愛い！ まるでしっぽみたいなお耳だね！」



しっぽのない犬は、しっぽがなくても、もういじめられなくなりました。

しっぽのない犬

<http://p.booklog.jp/book/60174>

著者 : @me

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/atommy/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/60174>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/60174>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ